

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目—スポーツ科目	担当教員	入澤 雅典、武良 徹文、藤側 宏喜			
授業科目	スポーツ A (ゴルフ)					
英 訳	Sports A					
配当年次	1年次 前期	必選別	選択必修	単位数	2単位	
【授業の概要】 ゴルフの理論と応用技術をグラウンドで学習し、学外のショートコースにおいて実践ラウンドを行い、ルール、マナーなどのラウンド知識を習得する。						
【授業の目的】 ゴルフは高校までの学校体育の教材として採用されることのほとんどない運動種目である。基礎的な理論・技術とラウンド技術を習得し、生涯にわたってゴルフを楽しむことができるようになることを目的とする。						
【到達目標】 ゴルフ技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくラウンドプレーが出来る。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと。体調を整えて参加すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス、授業計画、成績評価について 第 2回 グリップとアドレスの理論と実習 第 3回 プレーの方法 (ルール・プレー用語) 第 4回 ドライバーのスイングづくりの理論と実習 第 5回 スイングの完成とチェックの分析 第 6回 ショートゲームの理論と実習 第 7回 効果的な練習方法の理論と実習 第 8回 バンカーショットの理論 第 9回 バンカーショットの実習と分析 第10回 パターショットの理論と実習 第11回～第14回 ゴルフ場にてショートコース実習 (18ホール) 東広島カントリークラブファミリーコース 費用：700円程度 第15回 まとめ						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【メッセージ】 健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目—スポーツ科目	担当教員	入澤 雅典、武良 徹文、藤側 宏喜			
授業科目	スポーツ A (ミニテニス)					
英 訳	Sports A					
配当年次	1年次 前期	必選別	選択必修	単位数	2単位	
【授業の概要】 ミニテニスの理論と基礎技術であるフォアハンドショット、バックハンドショット、ボレー、サーブ等を習得し、できるだけ多くのゲームを消化していく。体育館のバドミントンコートを使用する。						
【授業の目的】 ミニテニスは、短いラケットと弾まないボールを使用して行うため、本来のテニスよりも上達が早く楽しく行えるスポーツ種目である。本講義では、ゲームを中心にして技術、戦術を学習する。						
【到達目標】 テニス技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくプレーが出来る。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと。体調を整えて参加すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス、授業計画、成績評価について 第 2回 ミニテニスの歴史、テニスの運動強度推定 第 3回 グリップの理論と実習 第 4回 グラウンドストロークの理論と実習 第 5回 シングルス・ダブルスのルール 第 6回 ネットプレーの理論と実習 第 7回 ボレーの理論と実習 第 8回 サービスの理論と実習 第 9回 シングルスゲーム 1 第10回 シングルスゲーム 2 第11回 シングルスゲーム 3 第12回 ダブルスゲーム 1 第13回 ダブルスゲーム 2 第14回 ダブルスゲーム 3 第15回 まとめ						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【メッセージ】 健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目—スポーツ科目		担当教員	入澤 雅典、武良 徹文、藤側 宏喜		
授業科目	スポーツ B (フットサル)					
英 訳	Sports B					
配当年次	1年次	後期	必選別	選択必修	単位数	2単位
【授業の概要】 フットサルの基本技術や基本戦術の理論と実践を学ぶ。フットサルの正式なルールを理解しながら、フットサル独特の足技や動き方を身につけ、それらをゲームで活用できるようにする。						
【授業の目的】 フットサルの実践を通して運動技能を高め、生涯スポーツを続けていくための取り組み方、ルール・マナーの習得、戦術・戦略的活動の理論と実践を身につけ、競い合う相手を尊重し、周囲と共同する態度を学ぶ。						
【到達目標】 フットサル技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくプレーが出来る。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと。体調を整えて参加すること。						
【授業計画】 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 基礎体カトレーニング 第 3 回 個人技術の習得 (1) (足裏でのボールタッチなど) 第 4 回 個人技術の習得 (2) (パス: 様々なキック) 第 5 回 集団技術の習得 (1) (ボールポジション) 第 6 回 集団技術の習得 (2) (シュート: ポスト、スイッチなど) 第 7 回 集団技術の習得 (3) (ポジションとその役割) 第 8 回 集団技術の習得 (4) (セットプレー) 第 9 回 ルールの確認 (審判とゲーム進行) 第 10 回 ゲーム運営 (1) 第 11 回 ゲーム運営 (2) 第 12 回 ゲーム運営 (3) 第 13 回 ゲーム運営 (4) 第 14 回 フットサルに必要な技術と戦術の確認 第 15 回 まとめ						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【メッセージ】 健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目—スポーツ科目	担当教員	入澤 雅典、武良 徹文、藤側 宏喜			
授業科目	スポーツB (バスケットボール)					
英 訳	Sports B					
配当年次	1年次	後期	必選別	選択必修	単位数	2単位
【授業の概要】 バスケットボールの競技特性、及びルールを理解し、基礎的な個人的・集団的技能を習得する。更にそれらを活かしたゲーム展開の方法や審判法の実習をする。						
【授業の目的】 授業の前半に基本的な個人的・集団的技能を習得するための練習を行い、後半に学習した技能を実践するためのゲームを行う。また、ゲームを運営するための審判法や記録法についても学習する。						
【到達目標】 バスケットボール技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくプレーが出来る。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと。体調を整えて参加すること。						
【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回 基本技術 (ボールハンドリング、パス、ドリブル、シュート) 第3回 個人技術 (1対1の攻撃と防御) 第4回 集団戦術 (2対2、3対3での攻撃) 第5回 集団戦術 (2対2、3対3での防御) 第6回 ルール、審判法 第7回 チーム戦術1 第8回 チーム戦術2 第9回 チーム戦術3 第10回 ゲーム運営 (1) 第11回 ゲーム運営 (2) 第12回 リーグ戦 (1) 第13回 リーグ戦 (2) 第14回 リーグ戦 (3) 第15回 まとめ						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【メッセージ】 健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目—スポーツ科目	担当教員	入澤 雅典、武良 徹文、藤側 宏喜			
授業科目	スポーツC (バドミントン)					
英 訳	Sports C					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択必修	単位数	2単位
【授業の概要】 バドミントンの理論と基礎技術であるフォアハンド・バックハンドストローク、サーブ等を習得し、できるだけ多くのゲームを消化していく中で、ルール、戦術を習得する。						
【授業の目的】 バドミントンは比較的小スペースで楽しむことができる手軽なスポーツであるが、レクリエーション的に行う羽根つきのレベルから、勝利を目的とした競技レベルまで、そのプレーの内容は極めて幅が広い。生涯にわたってバドミントンを楽しむことが出来るよう基本的な技術とゲームの進め方を学ぶことを目的とする。						
【到達目標】 バドミントン技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくプレーが出来る。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと。体調を整えて参加すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス、授業計画、成績評価について 第 2回 バドミントンの歴史、バドミントンの運動強度推定 第 3回 ルールの理論 第 4回 フォアハンドストロークの理論と実習 第 5回 バックハンドストローク、スマッシュの理論と実習 第 6回 ハイクリアー、ドロップの理論と実習 第 7回 ドライブ、ヘアピンの理論と実習 第 8回 サービスの理論と実習 第 9回 シングルスゲーム 1 第10回 シングルスゲーム 2 第11回 シングルスゲーム 3 第12回 ダブルスゲーム 1 第13回 ダブルスゲーム 2 第14回 ダブルスゲーム 3 第15回 まとめ						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【メッセージ】 健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目—スポーツ科目	担当教員	入澤 雅典、武良 徹文、藤側 宏喜			
授業科目	スポーツC (ゴルフ)					
英 訳	Sports C					
配当年次	2年次 前期	必選別	選択必修	単位数	2単位	
【授業の概要】 ゴルフの理論と応用技術をグラウンドで学習し、学外のショートコースにおいて実践ラウンドを行い、ルール、マナーなどのラウンド知識を習得する。						
【授業の目的】 ゴルフは高校までの学校体育の教材として採用されることのほとんどない運動種目である。基礎的な理論・技術とラウンド技術を習得し、生涯にわたってゴルフを楽しむことができるようになることを目的とする。						
【到達目標】 ゴルフ技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくラウンドプレーが出来る。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと。体調を整えて参加すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス、授業計画、成績評価について 第 2回 グリップとアドレスの理論と実習 第 3回 プレーの方法 (ルール・プレー用語) 第 4回 ドライバーのスイングづくりの理論と実習 第 5回 スイングの完成とチェックの分析 第 6回 ショートゲームの理論と実習 第 7回 効果的な練習方法の理論と実習 第 8回 バンカーショットの理論 第 9回 バンカーショットの実習と分析 第10回 パターショットの理論と実習 第11回～第14回 ゴルフ場にてショートコース実習 (18ホール) 東広島カントリークラブファミリーコース 費用：700円程度 第15回 まとめ						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【メッセージ】 健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目—スポーツ科目	担当教員	入澤 雅典、武良 徹文、藤側 宏喜			
授業科目	スポーツD (ニュースポーツ)					
英 訳	Sports D					
配当年次	2年次	後期	必選別	選択必修	単位数	2単位
【授業の概要】 あまり体験したことのないニュースポーツの基本技術や基本戦術の理論と実践を学ぶ。						
【授業の目的】 ニュースポーツの実践を通して運動技能を高め、生涯スポーツを続けていくための取り組み方、ルール・マナーの習得、戦術論と実践力を身につけ、競い合う相手を尊重し、周囲と共同する態度を学ぶ。						
【到達目標】 ニュースポーツの技術の基本・ルール・マナーを学び、楽しくプレーが出来る。						
【準備学習(予習・復習)】 体調を整えて参加すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス (オールラウンドスポーツ) 第 2回 フライングディスク (アルティメット) のルールと戦術 第 3回 フライングディスク (アルティメット) 実践1 第 4回 フライングディスク (アルティメット) 実践2 第 5回 ホッケー (ユニホック) のルールと戦術 第 6回 ホッケー (ユニホック) 実践1 第 7回 ホッケー (ユニホック) 実践2 第 8回 ソフトバレーボールの戦術 第 9回 ソフトバレーボール実践1 第10回 ソフトバレーボール実践2 第11回 フットサルの戦術 第12回 フットサル実践1 第13回 フットサル実践2 第14回 ラケットスポーツ (卓球、バドミントン) 実践 第15回 まとめ						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 平常点50%、レポート20%、授業中の実技テスト30%で評価する。						
【メッセージ】 健康上問題のある者は、相談してください。						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目—スポーツ科目	担当教員	入澤 雅典			
授業科目	生涯スポーツ A					
英 訳	Lifelong Sports A					
配当年次	1年次 前期	必選別	選択必修	単位数	2単位	
【授業の概要】 生涯スポーツの一環として、マリンスポーツ（シーカヤック、ウインドサーフィン、スクーバダイビング）の技術を学び実践する。 また、キャンピングの基本的な技術（テント設営、飯盒炊さん等）を習得し、2泊3日の海浜での共同生活を行い、団体生活での協調性を養う。						
【授業の目的】 生涯にわたって楽しめるマリンスポーツ技術を獲得すること、 キャンピングの基本的な技術を習得することを目的とする。						
【到達目標】 キャンピング、マリンスポーツを生涯にわたって楽しむことが出来るようになる。						
【準備学習(予習・復習)】 ある程度の水泳能力（水が怖くない程度）が必要。						
【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回 マリンスポーツの理論と技術 （ウインドサーフィン） 第3回 マリンスポーツの理論と技術 （シーカヤック） 第4回 マリンスポーツの理論と技術 （スクーバダイビング） 第5回 テント設営および撤収実習 第6回 キャンプサイト設営理論 第7回 現地実習の計画作成、準備 第8回～第14回 実習：8月下旬（2泊3日） 場所：呉市蒲刈町県民の浜周辺 費用：ガイダンス時に提示する 第15回 まとめ、レポート提出						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 授業への取り組み（80%）、レポート提出（20%）						
【メッセージ】 アウトドア生活を楽しみましょう。						

区 分	総合教育センター科目群 教養教育科目—スポーツ科目	担当教員	武良 徹文			
授業科目	生涯スポーツ B					
英 訳	Lifelong Sports B					
配当年次	1年次 後期	必選別	選択必修	単位数	2単位	
【授業の概要】 生涯スポーツの一環として、スノースポーツ（スノーボード）の技術を学び、ウィンタースポーツを生涯スポーツとして実践できる基礎技能を身につける。また、スポーツ運動学の視点からとらえたスノーボードの滑降理論を学ぶ。大学での事前研修と3泊4日でスキー場での宿泊実習を行い、団体生活を通して協調性を養う。						
【授業の目的】 スノーボードの基本的な技術を習得することによって、生涯にわたって楽しめるレクリエーションスポーツの技能を獲得することを目的とする。						
【到達目標】 様々な環境でスノーボードを楽しむことができるようになる。						
【準備学習(予習・復習)】 スノーボードに関する書籍・web記事等を閲覧しておくこと。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス、授業計画、成績評価について 第 2回 スノースポーツの技術史 第 3回 道具のセッティング・整備 1 第 4回 道具のセッティング・整備 2 第 5回 スノースポーツの技術・理論 第 6回 基本的な滑り方の実習 1（体育館） 第 7回 基本的な滑り方の実習 2（体育館） 第 8回～第 14回 実習：2月中旬（3泊4日） 場所：鳥取県大山スキー場 費用：ガイダンス時に提示する 第 15回 レポート提出						
【教科書】						
【参考書】 授業中に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 授業への取り組み（80%）、レポート提出（20%）						
【メッセージ】 アウトドア・スポーツを楽しみましょう。						